メディア掲載情報

媒体名	鉄鋼新聞
掲載号	
掲載日	2014/7/4掲載
掲載内容	ベトナム進出　記事

カツデンアーキテック
住宅用階段 越に製造販売拠点
「技術力」「独自製品」で、国内外展開

室内用鋼製階段メーカーのカツデンアーキテック（本社・東京都台東区、社長・坂田清茂氏）は、初の海外拠点として2015年6月の本稼動を目指してベトナムに住宅用階段の製造販売拠点を開設する。日本で長年培った階段製作に必要な各種技術と独自開発する商品群を携え、国内外を両にらみした市場展開を描く。

カツデンアーキテックは、法人「カツデンアーキテック ベトナム」（社長・田上 町古郡土井下）の分工場として始動する。対日向けの6月、越南部のビンズオン省でシンガポールの政府企業が開発する工業団地「アセンダス・プロトレード・シンガポール・テックパーク（APSTP）」に現地法人「カツデンアーキテック ベトナム」（社長・田上 町古郡土井下）の分工場として始動する。対日向けの製品をめぐっては、同一の工程で運用でき、コンテナ船を活用して納期や数量など計画的に生産しやすい製品の供給を起点に出荷対応する。

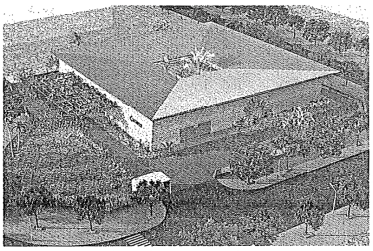
坂田社長

計画生産を起点に始動

新工場には、レーザー加工機やブレーキプレスなどの板金機械や粉体塗装する場棟を構える。

稼働開始時には事務方と生産現場を合わせて13人体制で臨む。うち3人は埼玉一様が特性の受注案件を団地工場、その他の階段や関連製品を扱う木部工場（同町木部）と、計3カ所で役割を分担する。

全社的な観点では、一品の同社工場で経験を積む技能実習生で、いずれも現在加工ラインの一線で活躍する。さらに6人が実習期間を終えた後の現地入りする方向で控えており、日本と同等の品質・管理体制を実現するけん引役を果たす。日本で磨いた腕を現地で再現する適材適所の人材配置を通じて、意匠性が高い室内階段ならではの、焼き付けをはじめ〝仕上げ〟に必要な技能の提供につなげる。三次元CADを駆使する部門の立ち上げなどハード、ソフト双方で機動力を高める。


新工場では技能実習生を積極的に起用

板金・溶接・塗装の3工程で競争力

03年に親会社カツデンの建材事業部を分社してカツデンアーキテックを設立する以前から蓄積する「板金」「溶接」「塗装」の3つの工程に関するノウハウは、主力商品の階段製作にとどまらず、それぞれの加工技術自体が競争力を持ち合わせる。今後は地場の需要家の要請により、工程単位での受注機会の創出に道筋がつきそうだ。

もっともベトナムでは同国や周辺地域の市場動向を細やかに捉え、現地の需要に応じた製品開発も視野に入れる。ベトナム語の商品カタログやホームページを作成。販路を広げる過程において、設置時の空間を想像できるよう階段を展示するショールームの新設も延長線に浮かぶ。

構想から3年。現地調査を踏まえ、経済成長が著しい市場で将来性に富んだ事業化の道を踏みだしたカツデンアーキテック。名実とも「階段で海を渡る」瞬間が迫る。

（中野　裕介）

本記事の内容は雑誌・媒体掲載時の情報です。
発表内容・製品仕様など発表当時と現在とで異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。